

◆巻頭言

[国際交流で自分自身をアップデート!](#) 菅野 圭子 1

◆学術部報告

[日本作業療法士協会における作業療法の定義改定手続きと新定義の解説](#)
. 学術部定義改定班 3

◆研究論文

[高齢者の非利き手によるペン操作時に要する筆圧および握り圧の特性](#)
—若年者との比較— 内田 智子・他 18

[救命救急センターにおける作業療法に関する全国調査](#) 藤本 侑大・他 28

[脳血管疾患患者における回復期リハビリテーション病棟退院後の日常生活活動能力の
変化および関連因子に関するアンケート調査](#) 久堀 佐知・他 37

[脳卒中片麻痺者が生活のなかで麻痺手の使用・不使用にいたる過程](#)
. 北村 新・他 45

[精神障害者におけるポジティブ作業に根ざした実践のプログラム開発とその適用方法の
予備的検討](#) 野口 卓也・他 54

[自閉スペクトラム症のある青年の作業遂行技能と感覚および自己効力感との関連に
関する研究](#) 富士しおり・他 64

◆実践報告

[ファンタジー没入によって生活障害を呈する広汎性発達障害男児への支援](#)
. 齋藤みのり・他 72

[脳卒中後の重度上肢機能障害に対して手指および上肢のロボット療法を含む複合的な
介入を実施した一例](#) 松畷ありさ・他 78

[併存障害を有する成人期 ADHD 患者に対する訪問作業療法の意義](#)
—家事や育児の困難により入退院を繰り返していた事例を通して—
. 真下いずみ・他 87

[生活行為向上マネジメントを用いた統合失調症の男性への地域生活移行支援](#)
. 青山 克実・他 96

[統合失調症の急性期作業療法において意味のある作業に着目することの有用性](#)
. 南 庄一郎 103

[医療観察法病棟における統合失調症の長期入院事例に対する作業療法](#)
—ギター演奏という意味のある作業を生かして— 南 庄一郎 110

[日中の活動が慢性疼痛の日内変動に及ぼす影響](#)
—右腕神経叢損傷後疼痛を有する 1 症例での検討— 田中 陽一・他 117

編集後記

▶いつも、日本作業療法士協会としての最新公式学術論文を掲載している本誌は、この38巻1号から新規試みとして、フリーアクセスできる稀有な学術誌となった。学問の世界にも蔓延している金銭的経済観から離れ（美化した過剰表現？）、本来的に学術活動を全人類の利益として無償で貢献する精神へと進めることとなった。これは、学問のリハビリテーション（復権）の姿かもしれない。クライアントにとって「意味のある活動」、つまり「作業」に着目した生活関連活動や参加を手段や目的とする研究や実践の報告が、充実してきていると、本号の内容から思う。作業療法観がリハビリテーション文化に充満し、この傾向の定着を願っている。（H・S）

▶本号は歴史的な変革が2つあった。1つは、33年ぶりに改定された作業療法の定義の掲載である。今回の定義により、作業療法の守備範囲の広さ、つまり多くの国民に貢献する専門職であることが示された。もう1つは学術誌の電子公開である。インターネットを通じて、誰でも気軽に作業療法の最先端の情報へアクセスできるようになった。これらを掛け合わせると、多くの国民に対して根拠に基づく作業療法が提供される機会が増える、と言えようか。時勢を読み、その在り方をしなやかに千変万化させつつ、できる限り多くの国民に貢献したいという献身的な姿に、私は作業療法らしさを感じた。大きな変革には賛否両論が絶えないが、少なくとも今回の変革の成否は、会員一人ひとりの日頃の意識次第ではないだろうか。（K・T）